



2015年7月23日
ボーイング ジャパン株式会社
一般財団法人日本航空機開発協会

ボーイングと日本のパートナー、 777Xの開発・製造に関し正式契約に調印

ボーイングと日本の機体主要パートナーは本日、ボーイングの新型旅客機 777X の開発・製造に関する正式契約に調印しました。これは昨年、ボーイングと日本の航空機メーカー（JAI）および日本航空機開発協会（JADC）が発表した、主要構造部位の約 21% を日本の航空機メーカーが製造分担するという合意覚書（MOA）を、契約諸条件を盛り込み契約文書にまとめたもので、分担部位としては胴体、中央翼、圧力隔壁、主脚格納部結合、客室扉、貨物室扉、主脚扉、翼胴フェアリング等が含まれます。

JAI とは、三菱重工業 (MHI)、川崎重工業 (KHI)、富士重工業 (FHI)、新明和工業 (SMIC) および日本飛行機 (NIPPI) の総称で、JADC は民間航空機の開発を推進し、日本の航空機メーカーの競争力を高める目的で設立された一般財団法人です。

ボーイング民間航空機部門でサプライヤー・マネージメント担当バイス・プレジデント兼ゼネラル・マネージャーを務めるケント フィッシャーは、「日本のパートナーは常に最高水準のパフォーマンスを見せてくれており、現行 777 の大いなる成功にも大変貢献してくれています。我々は 777X を競争力のあるものにするための努力を続けており、彼らはカスタマーに対するコミットメント、刻々変わる市場の要求に応えられる、パートナーシップの一つの模範例になっています」と述べています。

ボーイングはこれまで日本の航空機メーカーと、次世代 737、737 MAX、747、757、767、777、787 ドリームライナー、そして今回の 777X の開発、製造を通じて、50 年近くにわたり協力関係を続けてきています。

JADC の村山滋理事長（川崎重工業社長）は、「今回の正式契約は JADC および JAI においてきわめて重要なイベントであり、JAI 各社においても工場の新設を含む拡張、ロボットや新しい設備の導入など自動化の推進等積極的な投資を行い、高品質の製品を納期通りに提供することにより 777X の成功に貢献したい」と述べています。

2014 年、ボーイングは 50 億ドル（約 6,100 億円）におよぶ製品・サービスを日本から調達するとともに、数万人の雇用を支えています。ボーイングによる日本からの調達規模は、今回の契約締結により今後 5 年間で約 360 億ドル（約 4 兆 4,000 億円）に達すると予測されています。

ボーイング ジャパン社長のジョージ マフェオは、「今回の契約は、重要かつ戦略的な我々と日本とのパートナー関係を、さらに今後数十年にわたり継続させるものとなります。昨年の MOA 締結以降、日本のパートナーは 777X や他のボーイング機種増産に対応するため、既に多くの最先端の設備

投資を開始しています。我々は彼らの協力に感謝し、ともに世界の航空機産業の未来を創っていきたい」と述べています。

JADC の一丸清貴専務理事は「日本の航空機メーカーは、この 50 年、最初の 747SP への参画をはじめとして、以降のほぼすべての民間機プログラムに参画しており、ボーイング社とは単なるサプライヤーを超える関係を築き上げてきました。今回の 777X の契約はそれをより強固にするものであり、将来にわたって航空機の開発・製造についてともに歩んでいきたい」と述べています。

777X は、乗客に人気が高く市場をリードする現行 777 ファミリーをベースとして作られます。777X ファミリーとしては 777-8X と 777-9X があり、どちらも市場の要求やお客さまの嗜好に応えるべく設計されています。777X は現在 6 社から 306 機の確定受注を得ており、2017 年に生産を開始、2020 年の初号納入を目指しています。

■お問い合わせ先■

ボーイング ジャパン株式会社 コミュニケーションディレクター
電話 03-5223-2028 ロブ ヘンダーソン
一般財団法人日本航空機開発協会 総務部
電話 03-3503-3225 池上 誠一郎